

論壇

政治動かす「黒字悪玉論」

20世紀の偉大な経済学者ジョン・メイナード・ケインズの名著「雇用・利子および貨幣の一般理論」は、マクロ経済学の基礎を形成したものである。世界の多くの国のマクロ経済政策に大きな影響を及ぼしてきた。この本の最後のところに、非常に有名な文章がある。

「経済学者や政治思想家の思想の影響は、それが正しい場合にも間違っている場合にも、一般的に考えられているより、はるかに強力なものである。世界を支配しているのは、思想以外にはないと言

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

えるほどである。自分は実務的であり、どのような思想からも影響を受けていないと信じている人も、実は過去の経済学者の奴隷であるのが普通だ。権力の座にあり、天の声を聞くと言っている狂人も、実は少し前に書かれたエッセイ者からの間違った思想を受け継いでいる」というものだ。

最近の国連演説でも、日本には言及しなかったものの、同じような発言をしている。私も中国の経済政策におかしなことが多くあると思う。ただ、米国の貿易赤字が日本や中国の責任であるという議論は全く理解できない。さらにいえば、貿易赤字であることが、米国の不利益にな

貿易収支の捉え方

トランプ大統領の発言やその経済政策を見ると、ケインズのこの有名な文章を思い出さざるを得ない。「日本や中国は米国に対して大きな貿易黒字を出している。これが米国の雇用を奪っている。フェアではない。だから力づくでもこの貿易不均衡を是正す

貿易黒字や貿易赤字というところ、黒字はよいことで赤字は悪いことのように思えるかもしれない。確かに家計の収支が黒字はよくて赤字は悪い、というのはその通りだろう。ただ、貿易収支の黒字や赤字はそんなものではない。米国の貿易収支が大きな赤字なのは、米国の景気が非常によく、消費や投資の規模が大きく、結果的に輸入の方が輸出よりも大きくなっていくからだ。それが米国の貿易収支の赤字となる。

赤字は「米国経済の強さ」

国内で生産する以上の額を輸入して、それが結果的に貿易収支の赤字になるといえるのは、米国経済の強さを表している。米国は貿易赤字を出すことができるだけの資金を海外から取り込んでいる。世界中の投資家が、米国の企業の株式や米国内の不動産に投資をしている。そうした投資が米国の貿易赤字の原資にもなっているのだ。

もし関税や輸出規制によって無理やりに貿易収支の黒字や赤字を縮小しようとするれば、米国経済にも随分と大きな悪影響が及ぶはずだ。現段階では、トランプ政権の保護貿易政策はまだ大きな声で脅す段階で、その実質的な影響にまでは至っていない。しかし、このような動きが続けば、米国をはじめとして世界中の国に被害が及ぶことになる。トランプ大統領には、間違った経済理論を振りかざし、世界を混乱に陥れるようなことは、そろそろやめてほしいものだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。